

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (日本語学日本文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的・論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立てて発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を通じて、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
--	--

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q				◎	○	◎	○	◎	○
				1	2	3	4						
21401	言語研究入門	言語研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2, 3, 4		*				◎		○		
21402	文学研究入門	文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2, 3, 4	*					◎		○		
21403	日本語学概説A	・日本語を客観的にとらえるための基本的な考え方や方法論を身に付ける。 ・日本語の諸特徴に関する基礎的知識を獲得する。	2, 3, 4	*	*				◎		○	◎	○
21404	古典と古典学	・日本古典文学の代表的な古典がどのように古典として認知されたかを知ることができる。 ・古典学の成果を踏まえて、新たな古典的作品がどのように創造されたかを知ることができる。	2, 3, 4	*	*	*	*		◎		○	◎	○
41972	日本語学概説B	・日本語学を客観的にとらえるための基本的な考え方や方法論を身に付ける。 ・日本語の諸特徴に関する基礎的知識を身に付ける。	2, 3, 4	*		*			◎		○	◎	○
41973	日本語の歴史1	言語の歴史を取り扱う方法論と、日本語の歴史に関する基礎的な知識を身に付ける。	2, 3, 4				*		◎		○	◎	○
41974	日本語の歴史2	日本語の歴史に関する諸問題について深く理解する。	2, 3, 4				*		◎		○	◎	○
41975	日本語学講義1	日本語の構造、または日本語の構造に関する歴史的变化に関する理解を、個別の問題の探求を通して深める。	2, 3, 4				*		◎		○	◎	○
41976	日本語学講義2	日本語の構造、または日本語の構造に関する歴史的变化に関する理解を、個別の問題の探求を通して深める。	2, 3, 4				*		◎		○	◎	○
41977	日本の近代文学	近代文学作品の表現に注目し、「なにが」「どのように」書かれているか意識した読解ができる。	2, 3, 4	*	*	*	*		◎		○	◎	○
41978	日本の現代文学	現代文学作品の表現に注目し、「なにが」「どのように」書かれているか意識した読解ができる。	2, 3, 4	*	*	*	*		◎		○	◎	○
41979	古典文学研究法講義	・日本古典文学についての研究・享受の歴史を踏まえた研究法を身につける。 ・文学作品を「書いてあるとおりに読む」ための基本的な方法を獲得する。	2, 3, 4	*					◎		○	◎	○
41980	近代文学研究法講義	・近代文学を解釈するための研究法に触れ、それらの知見を活用して自らの解釈を導き出せる。	2, 3, 4				*	*	◎		○	◎	○
41981	現代文学研究法講義	・現代文学を解釈するための研究法に触れ、それらの知見を活用して自らの解釈を導き出せる。またその研究法それ自体についての知見を深める。	2, 3, 4	*					◎		○	◎	○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (日本語学日本文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的・論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積みこにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
---	---

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4						
41982	文芸思潮講義	・広く日本近現代文学の文芸思潮に触れ、見識を深める。	2, 3, 4			*		◎			◎		◎
41983	古典文学特殊講義	・日本文学史を貫流する問題や同時代の広がりの中でジャンルを横断して看取される共通点を取り上げて追跡・追求することができる。	2, 3, 4			*		◎		○	◎	○	○
41984	近代文学特殊講義	・近代文学と社会の関係に注意を巡らし、論理的読解ができる。言葉の細部にまで注意を巡らし、注釈的読解ができる。	2, 3, 4	*				◎			◎	○	○
41985	現代文学特殊講義	・現代文学と社会の関係に注意を巡らし、論理的読解ができる。言葉の細部にまで注意を巡らし、注釈的読解ができる。社会の問題について知見を深めることができる。	2, 3, 4			*		◎			◎	○	○
41986	比較古典文学講義	・日本の古典文学と諸国の文学との関連を意識し、その比較を通して古典文学に関する視野を広める。	2, 3, 4			*		◎		◎	○	○	○
41987	比較近代文学講義	・日本の近代文学と諸国の文学との関連を意識し、その比較を通して近代文学に関する視野を広める。	2, 3, 4			*		◎		◎	○	○	○
41988	比較現代文学講義	・日本の現代文学と諸国の文学との関連を意識し、その比較を通して現代文学に関する視野を広める。	2, 3, 4	*				◎		◎	○	○	○
41929	日本語学演習A	・個別のテーマ・文献を題材として、現代日本語の構造、あるいは日本語の歴史に関する理解を深める。 ・日本語を研究してゆく上で必要な、実証的方法論について知る。 ・調査、考察の成果を的確に人に伝えるためのプレゼンテーション能力を向上する。	2, 3, 4	*	*			◎		○	◎	◎	○
41930	日本語学演習B	・個別のテーマ・文献を題材として、現代日本語の構造、あるいは日本語の歴史に関する理解を深める。 ・日本語を研究してゆく上で必要な、実証的方法論について知る。 ・調査、考察の成果を的確に人に伝えるためのプレゼンテーション能力を向上する。	2, 3, 4			*	*	◎		○	◎	◎	○
41989	日本語学演習C	・個別のテーマ・文献を題材として、現代日本語の構造、あるいは日本語の歴史に関する理解を深める。 ・日本語を研究してゆく上で必要な、実証的方法論について知る。 ・調査、考察の成果を的確に人に伝えるためのプレゼンテーション能力を向上する。	2, 3, 4	*				◎		○	◎	◎	○
41955	古典文学演習A	・古典文学作品を「書いてあるとおりに読む」ために必要な基本作業を実践し、自分の考えをまとめ発表する力をつける。	2, 3, 4			*	*	◎		○	◎	◎	◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (日本語学日本文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史・思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的・論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積みこにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
---	---

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q				◎	○	◎	○	◎	○
				1	2	3	4						
41956	古典文学演習B	・古典文学作品を「書いてあるとおりに読む」ために必要な基本作業を実践し、自分の考えをまとめて発表する力をつける。	2, 3, 4			*	*	◎	○	◎	◎	◎	
41990	古典文学演習C	・古典文学作品を「書いてあるとおりに読む」ために必要な基本作業を実践し、自分の考えをまとめて発表する力をつける。	2, 3, 4	*	*			◎	○	◎	◎	◎	
41957	近代文学演習A	・近代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、わかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2, 3, 4			*	*	◎	○	◎	◎	○	
41958	近代文学演習B	・近代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、わかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2, 3, 4			*	*	◎	○	◎	◎	○	
41991	近代文学演習C	・近代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、わかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2, 3, 4	*				◎	◎	◎	◎	○	
41959	現代文学演習A	・現代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、わかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2, 3, 4	*	*			◎	○	◎	◎	○	
41960	現代文学演習B	・現代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、わかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2, 3, 4			*	*	◎	○	◎	◎	○	
41992	現代文学演習C	・現代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、自らの理解をわかりやすく発表できる。また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。	2, 3, 4	*				◎	○	◎	◎	○	
41993	古典文学史講義	・古典文学史の代表的作品を読解し、その周辺事象との関わりを知ることができる。	2, 3, 4			*		◎	○	◎	○	○	
41994	近代文学史講義	・近代の文学史に精通し、数多くの代表的作品に接することができる。	2, 3, 4	*				◎	○	◎	○	○	
41995	現代文学史講義	・現代の文学史に精通し、数多くの代表的作品に接して、よく理解することができる。	2, 3, 4			*		◎	○	◎	○	○	
21406	漢文学概説	・中国古典の各ジャンルと古代文化の特質を理解し、漢文読解の基礎的な知識を習得する。	2, 3, 4			*	*	○	◎	○	○	○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (日本語学日本文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的・論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
---	--

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4						
42003	漢文学史A	・中国古代・中世の文語体文学の歴史について学ぶ。 ・中国古典の読解を通じ外国の文化、思想について理解を深める。	2, 3, 4	*	*				○	◎	◎	○	○
42004	漢文学史B	・中国近世の文語体文学の歴史について学ぶ。 ・中国古典の読解を通じ外国の文化、思想について理解を深める。	2, 3, 4	*	*				○	◎	◎	○	○
31001	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*	*				◎		○	◎	◎
31002	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4		*		*		◎		○	◎	◎
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文科学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4		*		*		◎			◎	◎
11057	人文学序説A	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ラボラトリ(実験)、サーベイ(調査と分析)という方法の基礎的な知識を理解する。	1	*		(*)			◎				
11058	人文学序説B	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 フィールドワーク(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*	(*)			◎				
11059	人文学序説C	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 哲学・歴史学分野における具体的な研究実践やテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1	(*)		*			○		○		
11060	人文学序説D	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 言語や文学に関するテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1		(*)	*			○		○		

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (日本語学日本文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>	
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)	
<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的・論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立てて発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>コトバと文学の科学的研究に必要となるテクニカルな知識及び方法論を理解する。</p>	<p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p>
<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的・論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立てて発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p>	<p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p>
<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的・論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立てて発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p>	<p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p>
<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的・論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立てて発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p>	<p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p>
主履修分野のカリキュラム			
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年
11061	学類共通英語A	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3
11062	学類共通英語B	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語A」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3

※ (*)は年度によって開講時期が異なることを示します。